

2023（令和5）年度
公募制入試
推薦入試
卒業生子女・弟妹入試
[外国語学部]
小論文問題

注
意

- 1 開始の合図があるまでは、開かないこと。試験時間は六〇分である。
- 2 黒色鉛筆を使用すること。
- 3 解答用紙の所定欄に、氏名・受験番号を記入すること。
- 4 縦書きにすること。
- 5 下書きには、この用紙の余白を使用すること。
- 6 書き損じても、解答用紙は再交付しない。
- 7 この用紙は、試験終了後に回収しない。

解
答
要
領

解答は問題文中の設問の指示に従って、解答欄に適切に書くこと。
なお、句読点・かっこなども字数に加える。また、段落の初めの空きや、段落の終わりの行にできた空きも、書いてあるものとみなし、字数に加える。

次の文章を読み、問に答えなさい。

私たちは、自分の行為の結果を自分でコントロールすることはできない。これが利他の難しいところであり、「面白いところだ。可哀想だから、認知症のお父さんのために割り箸を割って持たせてあげた。しかしお父さんは怒り始めた。自分でやるうとしていたのに、邪魔されたと思ったのだ。同じようなことが、発展途上国の経済支援でもしばしば起こる。人道的支援のつもりで投入された資金が、かえって地域の経済を骨抜きにし、貧困を加速させてしまうのだ。

人の世の因果はあべこべである。良かれと思って相手のためにする利他は、自分の定義する善を相手に押し付けるだけの、一方的な利己に終わることも多い。利他の「他」とは、まずはこの結果の分からなさ、制御できなさなのだと思得るべきだろう。むしろ利他にとって重要なのは、「隙間を作ること」ではないか。みなが自己の評価を気にしてきゅうきゅうとなっている組織には、利他は生まれない。能動的に何かをする前に、他者がするりと入り込めるような余地を空けておくこと。そして、その偶然の出会いを、ノイズとして切り捨てずに次につなげていくこと。

相手の話をただ聞くだけでもいい。じっくり耳を傾け、「面白い」と唸（うな）っているとき、私の独りよがりの価値基準は揺さぶられ、他者の入り込む隙が空いている。利他が始まるのは、きっとそこからだ。

（2020年5月21日 朝日新聞 朝刊「伊藤亜紗の利他学事始め…他者が入り込む『隙間』を」
朝日新聞社に無断で転載すること禁ずる（承認番号 23-0383））

問1 筆者は、利他にとって重要なのは「隙間を作ること」だと言っています。筆者が「隙間を作ること」の例として挙げている具体的な行為を文中から9字で抜き出して答えなさい。

問2 あなたは「利他」についてどのように考えますか。筆者の考えを参考にして、あなたの考えを述べなさい。（601字以上800字以内）